

実施した基調講演・特別講演・教育講演の講演タイトルと演者名

| 年度 | 講演タイトル | 演者名 |
|------|---|--------|
| 2020 | プラチナ感受性再発卵巣癌における治療と AE マネージメント | 楯 真一 |
| | 絨毛性疾患アップデート：胞状奇胎の診断と管理 | 碓井 宏和 |
| | 高度肥満女性に対するロボット支援下子宮全摘術 | 石川 博士 |
| | 婦人科腫瘍（絨毛性疾患を含む）に関する最新の知見について | 碓井 宏和 |
| | 単一遺伝子疾患に学ぶホルモンの働き | 生水 真紀夫 |
| | 卵巣癌手術における他臓器合併切除のポイント | 楯 真一 |
| | 卵巣癌治療における拡大手術とオラパリブの役割 | 楯 真一 |
| | 子宮筋腫・子宮内膜症に対する治療法の選択—標準化から個別化へ— | 石川 博士 |
| | アンドロゲンは敵か味方か？ | 生水 真紀夫 |
| | ヒトの卵胞発育と排卵 -IVF-ET の臨床から理解する- | 生水 真紀夫 |
| | 子宮体癌患者の術前・術後マネジメント -耐糖能異常・血栓スクリーニング- | 三橋 暁 |
| 2019 | 絨毛性疾患の診断・治療 | 碓井 宏和 |
| | 子宮頸がんとはどんな病気か 日本も子宮頸がん撲滅国になろう | |
| | 進行卵巣がん治療における aggressive surgery と bevacizumab の相乗効果 | 楯 真一 |
| | 妊娠に関連した内分泌代謝疾患のおもしろさ | 生水 真紀夫 |
| | 婦人科がん術前・術後の静脈血栓塞栓症の管理 | 羽生 裕二 |
| | 子宮筋腫の薬物療法-GnRH アンタゴニストの使用経験を含めて- | 石川 博士 |
| | ベバシズマブ併用化学療法による NAC/IDS の治療戦略～自施設での知見も踏まえて～ | 楯 真一 |

| | | |
|------|--|--------|
| | 遺残胎盤の管理 | 岡山 潤 |
| | 若年性子宮体がんの検診と治療－子宮内膜細胞診の限界と妊孕性温存療法について－ | 三橋 暁 |
| | 女性診療とアンドロゲン－最近の話題から－ | 生水 真紀夫 |
| | なるほど、そうだったのか！世界初めてのプロラクチン受容体異常の発見 | 生水 真紀夫 |
| | 千葉大学医学部附属病院における卵巣癌初回治療 | 楯 真一 |
| | プロラクチン受容体変異 | 生水 真紀夫 |
| | 卵胞発育と排卵についての新しい理解 | 生水 真紀夫 |
| | プロラクチンの働きと制御に関する新たな知見 | 生水 真紀夫 |
| | エストロゲンの話をしよう～アロマターゼ異常症の臨床症例から学んだこと～ | 生水 真紀夫 |
| | 子宮筋腫の薬物療法 -働く女性の QOL 向上をめざして | 石川 博士 |
| | 子宮体がん・卵巣がん－検診の限界と予防対策－ | 三橋 暁 |
| 2018 | 分子標的薬の登場による卵巣がんの予後改善への期待 | 楯 真一 |
| | 遺伝性内分泌疾患から明らかになった生理と病理 | 生水 真紀夫 |
| | 婦人科癌患者の Cancer-VTE 術前マネジメント | 三橋 暁 |
| | 当科における胞状奇胎および妊娠組織遺残に対する子宮内容除去術 | 碓井 宏和 |
| | 若年性子宮体がんの検診と治療 -子宮内膜細胞診 | 楯 真一 |
| | 進行卵巣がんに対する aggressive surgery の有効性と安全性 | 楯 真一 |
| | 自然周期採卵が明らかにした卵胞発育と排卵の新しい理解 | 生水 真紀夫 |
| | 投与レジメンからみたフレキシブル投与 LEP のベネフィット | 石川 博士 |
| | 単一遺伝子疾患に学ぶホルモンの働き | 生水 真紀夫 |
| | 進行卵巣癌に対する Aggressive Surgery | 楯 真一 |
| | 婦人科癌患者の Cancer VTE 術前マネジメント | 三橋 暁 |
| | 単一遺伝子疾患に学ぶ | 生水 真紀夫 |